

## 「鳴子ダム水源地域ビジョン策定委員会 第1回策定委員会」について

平成17年1月26日(水)「鳴子ビューホテルかねちゅう」で、「鳴子ダム水源地域策定委員会(第1回)」が開催されました。

### 1. 第1回策定委員会の概要

(1) 日 時：平成17年1月26日(水)14:30~17:20

(2) 場 所：鳴子ビューホテルかねちゅう2階コンベンションホール曙

(3) 参加者：25名(3名欠席)

第1回策定委員会の経過と様子は次のとおりです。

会の冒頭、東北地方整備局河川部長からの挨拶があり、事務局より、鳴子ダム水源地域ビジョンの背景や目的、ビジョン策定の進め方、鳴子ダム水源地域の現状などの説明を行いました。

委員長に、森杉壽芳東北大学大学院情報科学研究科教授を選出し、議事が進められました。委員のみなさんから、さまざまな意見をいただきました。

なお、第2回策定委員会は、3月23日(水)に行う予定です。

### 2. 委員の発言の要旨

委員のみなさまからご発言いただいたご意見を、水源地域のありようなど、項目別に整理すると、以下のとおりです。

#### 〔 水源地域のありよう 〕

ビジョンにおいては、水源地域である鬼首地区のランドデザインづくりという取り組み方が必要。

利水、治水など、鳴子ダムの役割は高いが、一方で水源地域は人口が減少しており、今般の市町村合併を通して、大崎市として地域間を強く結んでいく必要がある。大崎市は合併後14万人となり、このスケールも活かしたい。

地域自治組織を位置づけ、鬼首地区の地域活動を進める必要がある。地域の元気は大崎市の元気につながる。

地域に住んでいる人が地域の良さをわからないと、よそから来た人に自分たちの地域の良さを説明できない。学校教育などで学習する機会が必要。

鬼首中学校が廃校になるため、今後の活用策を考えていく必要がある。

地域の人が主体となってビジョンづくりを進める必要がある。交流・連携などの事業展開も、地域の人がうまく利用するというスタンスが必要。

地域振興などを目的として、「観光」「交流」という言葉がよく使われるが、人を呼び込むためには、地域が人を呼び寄せる「能力」を身につけなくてはならない。一方的に人が来るのは「交流」ではなく「直流」である。地域の人々が地域に誇りを持ち、地域をよく知らなくてはならない。

江合川の源流部の石碑やダムサイトの感謝の碑など、地元の人も分からないくらい江合川や鳴子ダムに関する認識が薄れているので、子どもから大人まで、地域をよく学び、合併を契

機として、川によりつながっているという意識形成を図るべき。

〔 水源地域の環境について 〕

個人所有の山林や国有林など、森林資源の保全などの意識が非常に低くなっており、人々が森林に興味を示し、親しみのもてる自然林の復活を目指していく必要がある。

森林浴等、観光客が山の中まで入っていける仕組みづくりが必要である。

ダムを拠点に花淵山などにつながるトレッキングコースを整備し、山登り等のお客さんの要望に対応したい。

江合川の環境という視点で上流では下水道の整備が必要。

〔 鳴子ダムについて 〕

ダムの役割などについて認識し、学校教育の場で展開していく必要がある。校外学習の場ととらえPRしていく必要がある。

ダムに親しみをもって集まってくる人が少なくなっている。

すだれ放流は見事だが、知らない人も多く、PRが必要。

鳴子ダムは、アーチ形状など、東北地方で一番美しダムで、これも資源の一つとして活かすべき。

産業観光という形態があり、鳴子ダムの場合は、日本人が初めて造ったアーチダムとしての価値や、その機能・役割などもきちんと評価し、産業資産として価値観をもたせるような取り組みも必要。

〔 水源地域と江合川流域や各地域とのつながりについて 〕

鳴子ダム水源地域の鬼首地区は、秋田に向かうルート上にあり、広域での観光戦略づくりが必要。

「北上川という大きな川（江）と合う川」で江合川といわれるように、川を通じて交流が活発になればすばらしい。

森は海の恋人というように、江合川を通して、森（鬼首地区）は海（石巻市）までつながっている。この意識を高めれば交流人口も増えるだろう。

江合川流域沿いの「まち」がつながり、一つの「まち」としてがんばっていく必要がある。

ビジョンは、上流と下流の交流、水と人と温泉などをキーワードに、いろいろな組織を立ち上げて展開すべき。江合川を中心に人々の組織がたちあがればよい。グリーンツーリズムの活用など広がりをもってもらえれば発展していくのではないか。

江合川流域内外との交流活動が必要。

多くの方々に目的をもって鬼首に来てもらい、自然に触れ合ってもらいたい。

〔 荒雄湖畔公園や江合川について 〕

荒雄湖畔公園は何ができる公園なのかがわからない。もっとわかりやすく情報を発信していくべき。

キャンプ場があるが、最近はオートキャンプ場が主流なので、これらに対応してほしい。

冬期間の雪を使った観光（雪洞体験）を考えてはどうか。

近年は釣りのスタイルも変わり、休憩機能などのニーズが高いため、釣り人のため、トイレやレストハウスなどを整備してはどうか。

水に親しめる空間や、サイクリングロードなどを整備して、環境づくりを進めてはどうか。

〔 鳴子ダムや水辺と親しむ・眺望する 〕

ダム湖周辺の景色、すばらしさは下に降りないと見えない。ダムを見せるための駐車場整備などをすべき。

鳴子ダムの場合、ダムを眺望できる場所が小規模なので、今後整備される湖西道路などからの眺望地整備も必要ではないか。

〔 水源地域ビジョンのさまざまな視点について 〕

ダムの発電、地熱発電など、環境をテーマとしたエコツーリズム、グリーンツーリズムの観光を展開してはどうか。

水源地域の「魅力」の情報発信、温泉の良さ、森林浴などによる癒し、教育、医療などをキーワードとして展開してはどうか。

蕎麦など、「食」も一つの魅力となろう。

〔 鳴子温泉というイメージから 〕

脚気（かっけ）川渡、瘡（かさ）鳴子といわれるように、温泉の効力をもっとPRしたらどうか。

鳴子温泉は体に良いことをもっとPRしていくべき。

